

第31回名古屋地本定期委員会開催!

コロナ禍を口実とした賃金抑制を許さず、職場から闘おう

私たちJR東海労名古屋地本は、2月24日「牧野コミュニティーセンター」において第31回定期地本委員会を開催し、2021JR総連春闘を中心とした春の闘いについて意思統一を行いました。



コロナ禍で様々な制約を乗り越えての委員会開催

感染症対策を実施したうえでの委員会になりました。冒頭、荻野名古屋地本委員長は「定期昇給6,000円（基準昇給1,500×乗数4）と逡減撤廃、ベア6,000円、夏季手当3.5ヶ月そしてコロナ慰労金と無利子貸付などを柱とした要求を掲げ職場から闘う、コロナ禍の中で危険なリスクを抱えながら働いてきた私たちにとって賃上げは当然の要求だ。一方業績悪化を理由に賃金抑制の会社の動きに呼応するユニオンは労働組合とは言えない。名古屋地本今年30年を迎える、熾烈な会社からの攻撃中、組合員の利益を守るために奮闘してきた歴史を残す取り組みを進める。」と挨拶。続いて、来賓として本部より松山中執の挨拶を受けたあと、議事にうつりました。

参加者全員から意見を受ける

執行部から経過の報告と方針提起をうけ質疑に入りました。出された意見おもな意見（・賃金上げ見送りは許せない労働組合として当然の要求だ、勝ち取るため職場で頑張る。・経営悪化によるしわ寄せが現場にきている仕事に必要なものは要求してゆく。・この時期にユニオンの春闘に関する情報や掲示が出ていない、会社の賃金抑制をうけているのは明らか、ユニオン組合員にも訴え、共に闘いを作っていく。・出向先労働条件について）など参加したすべての組合委員から、方針を肉付けする意見が出されました。各執行部より答弁をうけ最後に御辺書記長より「経営側の意をくんだ春闘破壊をゆるさず、要求獲得にむけ奮闘する。」と総括答弁がなされましたのち、方針を満場一致で承認されました。最後に荻野委員長の団結ガンバローで委員会は修了しました。なお、今年1月に専任期間を終了した堀部さんに記念品が渡されました。



2021JR総連春闘を、全組合員で闘い抜こう！！